

地名の由来と史跡と文化財

(加茂里見地区編)



飯給真高寺山門（市指定文化財）

上総の国いちはらの歴史を知る会

(ふるさと市原をつなぐ連絡会会員)

令和3年4月編集・製作

まえがき

人類は、今から700万年前にアフリカ大陸でサル類（チンパンジー）から枝分かれして「二足歩行の人類」となった。その後徐々に進化し約10万年前に一部の人類がアフリカを出ていくつかの人種に変化し大陸に住み着きました。

旧石器時代（先土器時代・無土器時代）～紀元前1万4千年前頃、我が国にも大陸から渡り来て住み着いたと思われます。その頃の日本列島はユーラシア大陸と地続きであり、彼らはマンモスやナウマン象、大角鹿などの大型動物を追いかけて日本列島にやってきた。食料調達には、主に狩猟や採取を行い、石を打ち砕いて造られた打製石器を使用した。食器などはなかった。

私たちの住みます「いちほら」にも人が住み始めて3万年の歳月が過ぎ、いくつかの大規模な集落が出来てきました。そして弥生時代になると大陸から稲作が持ち込まれ、肥沃な土地では稲作が行われるようになり、権力者による統治が始まった頃と思われます。その中で、大変興味深い説があります。縄文時代の頃に、日本列島に太平洋南方より現ポリネシア語（マオリ語）を話す民族が渡来し、住み着いた人たちが初めて地名を付けたという説です。それらの古い時代に付けられた今とあまり変わらない発音で、今も多く使われています。その中でも「古事記」や「日本書紀」などの古典や日本語の中にも、多くの現ポリネシア語源の言葉を見ることができますが、文字で表すものはありませんでした。

しかし弥生時代になると朝鮮半島より渡来した人により漢字が伝わって来て、今まで言葉で伝えられていた呼び方に、適当な漢字を当てはめたものです。例えば、日本の象徴の山「富士山」は、マオリ語では「フチ（HUTI）」「引き上げられた山、または釣り上げられた山」という意味となります。そして、浅間神社は熊野神社と並び最古の部類の神社とされていますが、富士山の神を祀る「式内富知（ふち）神社」が最も古い神社とされています。

縄文時代には、争いごとは少なかったと言われていたのですが、水稻耕作が始まった弥生時代になると「定住民」が増えることにより、土地の利権争いが起き、古くから住んでいた縄文人は弥生人に圧倒されることになった。但し、古くからあった地名すべてが「現ポリネシア語（マオリ語）」という訳ではありません。

北海道には「アイヌ民族」のアイヌ語があり、沖縄には「琉球民族」が話す「琉球語」が存在する。

また、それぞれの地方には「方言」があり、その地方特有の言葉があります。

参考ですが、古来より「サ」が付いた名には「神様」に関係したものが多く見られます。

例えば、神社の敷地内は「境内（ケイダイ）」という聖域と一般の地を分ける「さかいめ」があり、神様が山から「さと（里）」に下ってくる道を「さか（坂）」と言います。また、祀りの際の神様の貴賓席を「さじき」と呼び、庶民は地面の芝に座ったので「芝居」という言葉が生まれたと言われています。

今回は、上総国市原郡内の中央部に位置します「加茂里見地区」の地名の由来と、その地にある史跡や文化財などを紹介します。



市原郡内の里見地区の地名の由来

千葉県の名の由来

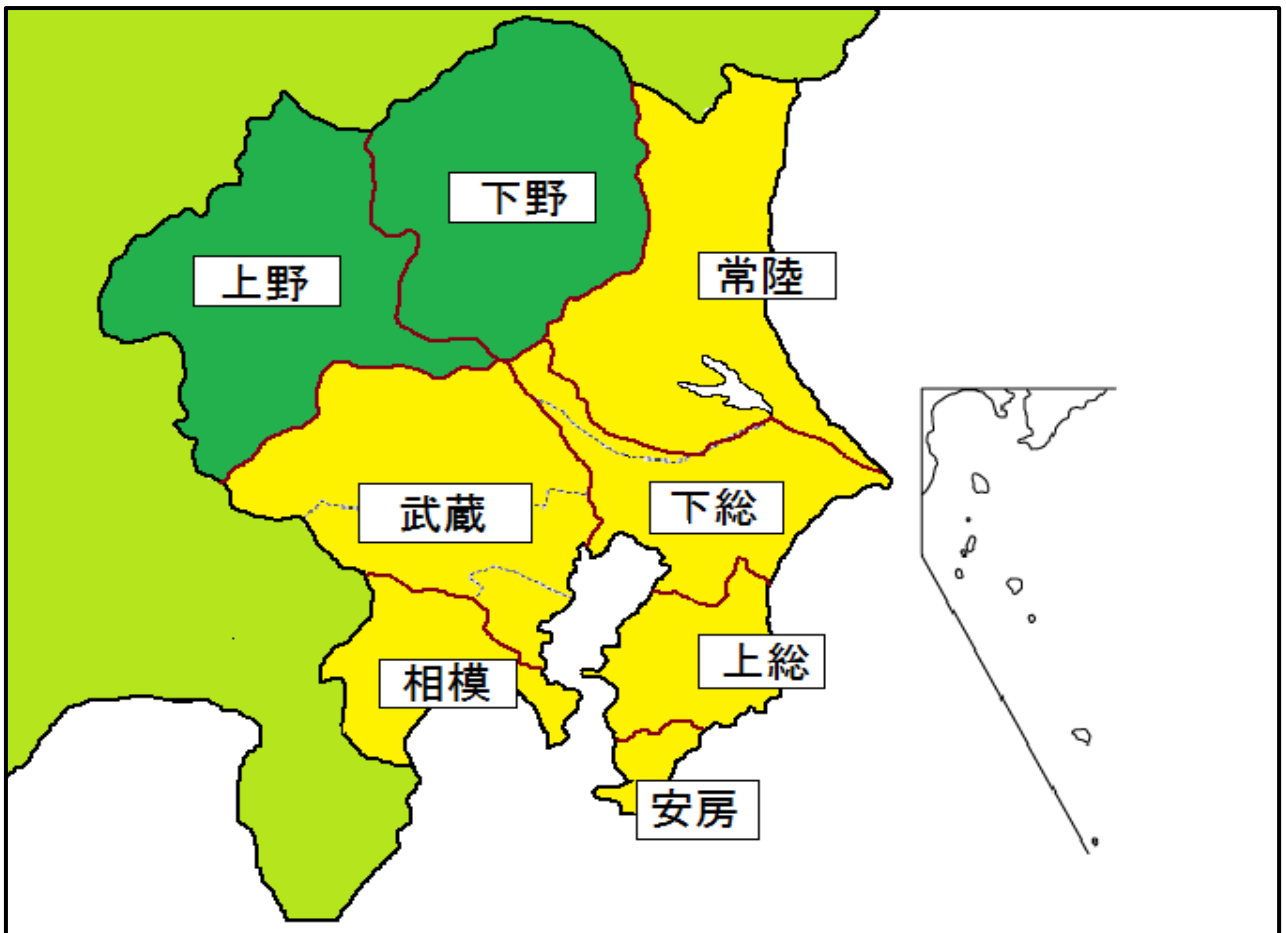
千葉県は江戸期までは総国（ふさのくに）と呼ばれており、茨城県南西部の一部と埼玉県東部の一部も含まれていました。この地域は7世紀後半の令制国の建置により、上総国と下総国が成立しその後養老2年（718年）に上総国から4郡が分かれ安房国が誕生した。

「総」の語源は、「古語拾遺」によると、「天富命（あまとみのみこと）」が安房国から齊部氏を率いて東上し、麻を植えたところ、良い麻が生えたので、総（麻）の国としたという説と、「風土記逸分」によると「総」とは木の枝を言い、昔この国に大きな数百丈のクスの木が生えていたが、大凶事との占いが出たので切り倒したところ、南に倒れたので、上の枝を「上総」と言い、下の枝を「下総」と言ったと記されているが、いずれも根拠が弱く、他にも「塞ぐ」からで「山などが周囲にある土地」や「ふし」の転訛で「高い所」の意味する説などがあるが、現在では朝廷の都に近いほうが上であり「上総」と付けられたという説が正しいと考えられる。

なお、「ふさ」はマオリ語で「フ・タ」で、「浸食された丘陵がある地域」の転訛と訳します。

「和名抄」に、下総国相馬郡布佐（ふさ）郷があり、現我孫子市東端の布佐の地域と思われる。上総国には、市原（国府所在地）・海上・畔蒜（あびる）・望陀（ぼうだ）・周淮（すえ）・天羽・夷隅・埴生・長柄・山辺・武射の11郡がある。

下総国には、葛飾・千葉・印旛・埴生・匝瑳・海上・香取・相馬・猿島（さしま）・結城・豊田の11郡が、安房国には、平群（へぐり）安房・朝夷（あさひな）・長狭の4郡で国造りがされた。市原郡は「伊知波良」と書き、中世には市西郡と市東郡に別れ、山田郡も郡域内にあったと思われます。国府の所在郡でもあり郡内には、海部（あま）郷・市原郷・湿津郷・江田郷・菊麻郷・山田郷の6郷があった。江戸期には、このほかに、海北郷・佐是郷など、旧海上郡域も併合された。



市原郡内地名の由来と神社、仏閣、史跡、文化財の紹介

※ アンダーライン部は、古代マリオ後（現ポリネシア語）での表現を日本語に転化したもの。

上総国市原郡の6郷

1・海部郷（あまのごう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「安万」東急本は「阿万」と呼ばれており、海士有木に比定されている。漁業、航海を中心とした職業的品部に由来する地名。

2・市原郷（いちはらごう）

平安期にあった郷で、市原・能満・門前・郡本付近に比定されている。地名の「イチ」は集落の意味、または「稜威」（いつ）の転嫁で美称か。櫟（いちい）の繁茂する原野の意味とする説もある。

※藤井は、万治2年（1659年）に郡本より分村したのと、山田橋は元は山田郷に属していたので、市原郷には含まれなかった。

3・湿津郷（うるつごう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「宇流比豆」、東急本では「宇留比豆」。市原市潤井戸付近に比定される。地名の由来は、「ウルヒ（湿）・ツ（場所）」と考えられる。村田川の上流で、豊富な涌泉があることから命名された地名と思われる。

4・江田郷（えだごう）

奈良期にあった郷で、高山寺本・東急本ともに訓は「衣多」。市原市吉沢付近は古くは江田郷と称したと伝えられ、当郷の比定と思われる。他に、市原市八幡付や市原市江古田などを含む養老川上流右岸の広大な地域を郷域としている。

5・菊麻郷（くくまごう）

平安期にあった郷で、東急本では「菓麻」と書く。訓は、高柳寺本・東急本ともに（久々万）。

市原市菊間付近に比定されている。地名の由来は、「くくまった（包み込まれたような）・地」の意味

6・山田豪（やまだごう）

平安期にあった郷で、東急本の訓は「夜万多」。市原市山田付近に比定されている。

地名の由来は、「山を開いて田を作ったところ」の意味か、「山間の田」あるいは「山処（やまど）」の転嫁で、「山のある処」とも考えられる。

里見地区 (飯給・大戸・柿木台・田淵・月出・徳氏・平野・万田野)

概説

この地区は、養老川の流域に位置し、飯給上の原、上平野、上田淵など縄文遺跡の存在から、古くから先住者が生活していたようだ。中古には高糖郷に属していたという。

伝説によれば飯給の地名の由来は、弘文天皇(大友皇子)に午食を捧げたことに因るといふ。

戦国時代には、真里谷武田氏と里見氏の勢力の接する地点とみられ、1570年頃の里見家相続争いに係わる旧跡もある。その後、徳川時代月出が勝浦藩領・武蔵岩槻藩領だった以外は、久留里藩土屋氏・黒田氏や旗本の所有を経て明治に至っている。

明治維新の際には宮谷県の支配となり、同2年には鶴舞藩井上氏の所領(月出を除く)となる。

明治11年には、千葉市原郡の管轄に帰し、飯給・徳氏・大戸・万田野・柿木台の5ヶ村の総合戸長役場を飯給に置き、田淵・月出の戸長役場は田淵に置かれ管理された。

明治22年の市町村制施行により、平野村を加え8ヶ村が合併し、里見村と称した。里見村の名称の由来はかつては里見氏の所領であった事に因っている。

昭和29年に近隣4ヶ村で加茂村となり、昭和42年に市原市に合併。



チバニアンについて (国指定文化財 天然記念物)

誕生から46億年という長い歴史を持つ地球は、いくつもの時代に分けられています。恐竜がいたジュラ紀や白亜紀などが有名です。ほとんどの時代はすでに名前が決まっていますが、まだ決まっていなかった時代もありました。地球の時代を分けるとき、生物の出現や絶滅など地球規模の大きな出来事を示す化石が使われてきました。最近では地磁気の逆転が起こった時期も併せて使われています。

市原市田淵にある地層は、一番新しい地磁気逆転の記録が世界で最もよく残っているため、令和2年1月に時代を分ける境界が良くわかる地層として、世界的に認められました。

このことにより、今まで名前がなかった約77万4千年前から12万9千年前までの時代がラテン語で「千葉の時代」を意味する「チバニアン」と呼ばれることになりました。日本の地名にちなんだ名前が地質年代につけられることは初めての快挙です。

飯給 (いたぶ) 神社・寺院・史跡文化財・城址 熊野神社・白山神社・運泉寺 (真言宗豊山派)
真高寺 (曹洞宗)・真高寺山門 (市指定文化財)

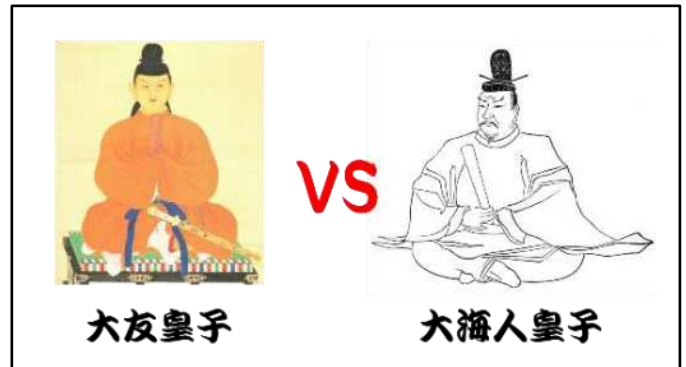
江戸期は飯給村。白山神社は大友皇子を祀る神社。

地名の由来は、天智天皇の皇子・大友皇子が逃亡してきた際に、村人が食べ物を差し上げた。皇子がこの地を去る時にお礼に「飯給」という地名を授けたという説と、同じ内容で日本武尊だとする説や「イビタ (木漣子) の転訛で、常緑低木のある所を指すという説がある。他に「いた (痛)・ふ (生)」で、崩壊地という意味。

大友皇子 (おおとものみこ) について

大化4年 (648年) ~ 天武元年 (672年)

天智天皇の第一皇子。母は伊賀采女宅子娘 (いがい
のうねめ・やかこのいらつめ)。天智天皇後継者として弘文天皇 (在位672年1月9日~8月21日)
となり当地したが、壬申の乱において、叔父の大海人皇子 (天智天皇の実弟で、後の天武天皇) に敗北し、逃亡の後に自害した。大友皇子にまつわる伝承や史跡は、市原市をはじめ、君津市・いすみ市・大多喜町などで、大友皇子や臣下達の史跡や伝承が多く残っています。



熊野神社 (くまのじんじゃ)

所在地 市原市飯給字宮前136番地
創建時期 不詳
祭神 伊册那支命 神紋 左三つ巴
宮司 平田 常義
由緒・伝説 創建時代・由緒不詳

熊野神社の本殿の建物



熊野神社の境内入口の鳥居



本殿内部の祭壇

境内の稲荷神社の祠



白山神社 (はくさんじんじゃ)

所在地 市原市飯給字森前937番地
創建時期 不詳
祭神 大友皇子 神紋 右三つ巴
宮司 平田 常義
由緒・伝説 創建年代、由緒不詳。境内に水神宮がある。

白山神社の本殿の建物





境内入口の鳥居と林間の参道



本殿内には祭壇が祀られる



本殿前には狛犬は鎮座

高塚神社 (たかつかじんじゃ)

所在地 市原市飯給57番地

創建時期 不詳

祭神 不明三柱

宮司 平田 常義

由緒・伝説 創建年代・由緒不詳。

境内に稲荷神社の祠が祀られる。

高塚神社の本殿の建物



石段の途中にある木製鳥居



本殿の中に祀られる祭神



境内に祀られる稲荷神社の祠

寂光山運泉寺 (じゃくこうさんうんせんじ) 真言宗豊山派

所在地 市原市飯給13番地

創建時期 創建時期は不詳ですが、江戸期の墓石や石仏が多く見られる。

本尊 不詳

住職 坂元 敦子

由緒、伝説 創建時期、由緒等は不詳

長泉寺の本堂の建物



境内入口に祀られる地藏様



本堂の正面入口。



境内の墓地脇に千手観音石仏

最勝山真高寺 (さいかちさんしんこうじ) 曹洞宗

所在地 市原市飯給字最勝

創建時期 室町時代の享徳2年(1453年)

本尊 不詳

住職 伊澤 孝順

由緒・伝説 享徳2年に真里谷城主武田三河守信康の開基により、真如寺三世の弟子、太巖存高禅師を招いて堂宇伽藍を曹洞宗として創建した。

真地の「真」と在高の「高」を取り寺号を「真高寺」とした。

創建当時、足利義政將軍から中本寺という寺格と、御朱印地が与えられ、徳川幕府から改めて御朱印地十五石を拝領し、末寺7ヶ寺を有していました。

当山19世久峰昌桂の時代、風雨にさらされ傷みのひどくなった伽藍を再建したが、明治元年7月戊辰戦争の不幸火に火災により、山門を除くすべてを失ってしまいました。

その後、明治42年に本堂、書院、庫裡、鐘楼から成る伽藍が復興しました。



真高寺本堂建物と参道



明治42年に再建された鐘楼



水子地藏の供養石仏と祈願所



真高寺の創建と三門の説明碑

真高寺山門 (しんこうじさんもん) 市原市指定文化財

種類 建造物

説明 真高寺山門は、廿世江巖泰玉によって造営が発願され、廿一世智学桂秀の代、寛政3年(1749年)に、三間一戸二階二重門で、入母屋造として上棟されました。創建してから120年を経過した大正9年11月、廿九世禅巖禰心の代に発願寄進主、飯給の木村喬によって山門の大修理が行われた。

その時の修理は、これまで柿葺きであった

下層の屋根を瓦葺きにした。

山門は、入母屋造二重構造の山門です。和式と禅宗様の折衷様式で、細い重垂木の並ぶ軒の





出が深く、優美な美しさを醸し出しています。中備の臺股や妻飾りには初代武志伊八八郎信由（波の伊八）の彫刻が、また天井板には狩野影川の竜図などがみられます。解体修理が完成し初層は柿葺き、二階は茅葺きの形状をとる銅板葺きの屋根となっていました。

8

大戸（おおと） 神社・寺院・史跡文化財・城址 熊野神社
江戸期は大戸村。地名の由来は、峡谷の深い山狭への入口につけられたもの。



山門の阿吽像と入口の扁額

所在地 甲府市大戸2-6番地

創建時期 不詳

山門2層目に掲げられる扁額

熊野神社の

山門の境内側に祀られる木造



祭神

伊册耶支命

神紋

右三つ巴（拝殿）・流れ左三つ巴（幟のぼり）

宮司

平田 常義

由緒・伝説

創建年代、由緒不詳。元は旧里見村大戸字関畑に鎮座していた。大正6年（1917年）熊野神社（字入四ト代）・大山祇神社（字ヲキ作）を合祀。昭和2年（1927年）大戸字入四ト代2912へ遷宮。

柿木台（かきのきだい） 神社・寺院・史跡文化財・城址 大山祇神社

江戸期は、柿木台村。地名の由来は、「かき（欠き）・ぬき（抜）だい（台）」の転訛で、崩壊した土地

か緩傾斜という意味。

大山祇



大山祇神社 (おおやまづみじんじゃ)

所在地 市原市柿木台字宮前106

創建時期 不詳

祭神 大山祇命

宮司 平田 常義

由緒・伝説 創建時期・由緒不詳。昭和5年(1930年)に日天社(字上ノ代:猿田彦命)・山神社(字下邨:大山祇命)を合祀。



田淵 (たぶち) 神社・寺院・史跡文化財・城址
野神社・能満寺(真言宗豊山派)

熊

耕昌寺

(曹洞宗)・チバニアン(5Pに掲載)

熊野神社 (くまのじんじゃ)

神社の鳥居と奥に本殿が

向台

本殿入口の上部に

扁額

創建時期 不詳

祭神 伊弉那岐命 神紋 左三つ巴

宮司 平田 常義

由緒・伝説 旧村社。創建時期・由緒不詳。

大正3年(1914年)天津日神社(字沢田・字スタレ:大日靈命)・

大山祇神社(字ノ後・字藤古布・字鋤ノ木:大山祇命)を合祀されている。

熊野神社の拝殿の正面



能満寺 (のうまんじ) 真言宗豊山派

所在地 市原市田淵73番地

創建時期 江戸期と思われる。

本尊 不詳

住職 坂元 敏子

参道入口の鳥居と石の燈籠

参道途中にある水手鉢

能満寺の本堂全景



拝殿の入口としめ縄



境内に元文・元禄・宝暦などの元号が刻まれた石仏が並んでいる。

米双山耕昌寺 (よねそうさんこうしょうじ) 曹洞宗

所在地 市原市田淵536番地

耕昌寺の本堂の全景



寺の近隣道路端のおほ仲様石仏上に千手観音、下に三猿の彫刻

住職 森田 文英
由緒・伝説 天保6年の馬頭観音が祀られており、

境内の不動明王を祀る不動堂



江戸期の元号が刻まれ



江戸時代と思われる。境内に6地蔵や



千手観音、三山詣での石碑がある。

琵琶首館 (びわくびやかた) 別名白尾館

所在地 市原市田淵字白尾

創建時期 天正8年(1580年)頃

築城主 里見 義頼

説明 「房総里見誌」によると、天正6年(1578年)の里見義弘没後に、義弘の弟で家督を任

耕昌寺の正面と入口の扁額 義弘の 本堂内に祀られた: 11

の通り領域を分配された。梅王丸には、

上総と佐貫城が、義頼には安房・下総と岡本城が
与えられた。この相続をめぐって義頼と

生前の義弘が対立し、義弘の葬儀には義頼を始め
とした安房の重臣たちは焼香にすら出かけ

ず、露骨に梅王丸と対立した。義弘は、天正8年
(1580年)に小櫃谷制圧に乗り出し、

久留鯉城や千本城などを陥落し、佐貫城に迫っ
た。梅王丸派は降伏開城し、古河公方家から

義弘の正室となった生母とその姉が梅王丸側の武将に担がることを恐れた義頼は琵琶首の館に幽閉された。のちに梅王丸は岡本城に召還され、無理やり出家させられ「淳泰」と名乗らされ、岡本城近くの聖山の一庵に幽閉された。淳泰は元和8年(1622年)に聖山で死去している。

琵琶首館は、かつては蛇行する養老川の断崖に囲まれた要害の地にあった。金蔵院の北300m程の位置で、現在は西側の台地基部にトンネルを掘って流量を直進させているので、川の流れは変わっているが、かつての養老川に削られた部分は断



崖になっている。

この台地の比高は10m程でしかないが、三方が断崖であり、西側の台地基部方向は岩盤むき出しの断崖となっており、城館を築くには最適の場所であり、幽閉所としても適している場所です。この台地の基部付近には、かつて「里見梅王丸」を弔うために満蔵寺が建立されていた



が、明治政府による「廃仏毀釈」により廃寺となった。

月出（つきで） 神社・寺院・史跡文化財・城址 大山祇神社・東漸寺（天台宗）

江戸期は、月出村。地名の由来は、当地の東漸寺の寺伝によると、行基が当地を訪れた際、夕日を受けて

養老川の旧川道に囲まれた館跡が空堀になってしまった旧光・月光菩薩が造られたとあり、この古事か

ら「突出」が「月出」に転化したという。また「すき（剥き）で（出）」の転訛で、地滑りし易い親村か

ら分かれた子村という意味。



大山祇神社の本殿の建物



大山祇神社（おおやまづみじんじ

や）

所在地 市原市月出字本村1007番地
 創建時期 不詳
 祭神 大山祇命
 宮司 平田 常義
 由緒・伝説 旧村社。創建年代、由緒不詳

医王山放光院東漸寺（いおうさんほうこういんとうぜんじ）天台宗

所在地 市原市月出字下畑928番地

大山祇神社の参道入口の鳥居（年）

本殿の入口の

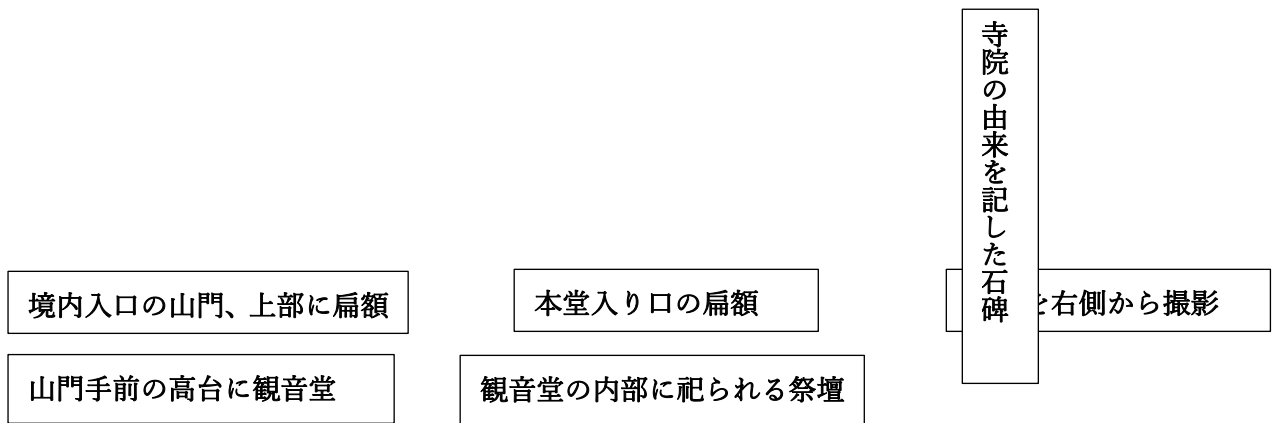
東漸寺の本堂の全音



境内に祀られる浅間大神の石碑

創建者 行基上人
 本尊 不詳
 住職 渡邊 亮澄
 由緒・伝説 天平9年にこの地を行基が訪れた際、

山中で夜更けて休んでいると、不思議な光が輝いていることに気が付いた。その方向に行ってみると古木が輝いていた。これを奇瑞と感じた行基は夜が明けると里人に頼んで木を切り出し仏像を彫り出した。それが薬師如来と日光・月光の二菩薩で、この尊像を安置する為に草堂を建てた。これがこの寺の始まりと言われている。天和・安政・明治時代に火災により本堂などは焼失したが、明治4年に再建された。現在の本堂は昭和53年に建立されている。



徳氏 (とくじ) 神社・寺院・史跡文化財・城址 十ヶ所神社・浅間神社・三峯神社
 江戸期は徳氏村。腰越村が編入。 13

地名の由来は、隣に柿木台があることから「徳内」の変化で、地滑りなどが無いことを願ってつけられた。



大山祇神社 (おおやまづみじんじゃ)
 所在地 市原市徳氏へタ山900番地
 創建時期 不詳
 祭神 大山祇命
 宮司 平田 常義
 由緒・伝説 旧村社。創建時期、由緒不詳

大山祇神社の本殿建物



境内入口の鳥居。先は長い石段



本殿手前に鎮座する石の祠

木製の社が壊れ、むき出しになっている石の祠



本殿の内部には祭壇が祀られる

浅間神社 (せんげんじんじゃ)

所在地 市原市徳氏字上栢417番地
 創建時期 不詳
 祭神 木花咲耶姫命
 宮司 平田 常義
 由緒・伝説 創建年代・由緒不詳。

石の祠が鎮座されている。

木製の社は台風で破壊されている。

参道は、鳥居から先は山道を4~500m程登って行くが、落ち葉や倒木などできつい。



県道から入った所の鉄製鳥居



石製の祠を左か撮影



社までには狭く滑る山道の参道

三峯神社 (みつみねじんじゃ)
 所在地 市原市徳氏45番地

創建時期 不詳
 祭神 不詳
 宮司 平田 常義
 由緒・伝説 創建時期、由緒不詳



県道わきの鳥居、その先に祠



三峯神社参拝記念碑と祠群



祭神が不明ですが石の祠

平野 (ひらの) 神社・寺院・史跡文化財・城址 大山祇神社

江戸期は、平野村。

地名の由来は、「ひら(傾斜地)・の(湿地)」で、傾斜地と湿地の在る地勢を指したものの。

大山祇神社 (おおやまづみじんじゃ)

所在地 市原市平野字上平野242番地

創建時期 不詳

祭神 大山祇命

宮司 平田 常義

由緒・伝説 旧村社。創建年代、由緒不詳。

平野
大山祇神社
の本殿



平野神社入り口の鳥居



本殿入口の扉には稲の飾り



本殿を右側から写す

万田野 (まんだの) 神社・寺院・史跡文化財・城址 天津日神社

江戸期は、万田野村。地名の由来は、初期は曼茶野と書き、戦国期真里谷城主の武田氏の家臣が同城落城の際、字中将塚に曼茶野を捨てたことにちなむというが未詳です。「また(股)の(傾斜地)」の転訛で、当地より川が二筋流れ出していることを指して

天津日神社 (あまつびじんじゃ)

所在地 市原市万田野字永作138番地

創建時期 不詳

祭神 大日靈命 神紋 左三つ巴

宮司 平田 常義

由緒・伝説 創建年代・由緒は不詳。拝殿に鶴と亀の

彫刻がある。大正11年(1922年)山神社(字宮ノ下谷:大山祇命)天津日神社(字宮の台:大日靈命)八坂神社(素盞鳴命)を合祀されている。



入口の鳥居と長い参道石段



拝殿入口に掲げられる扁額



境内に三猿の祠や二十三夜尊の祠

本資料は、次の資料を参考に作成しました。

- ・市原市埋蔵文化財センター遺跡ファイル
- ・ちょっと便利帳(日本の元号・年代早見表)
- ・全国遺跡報告総覧
- ・日本の城郭・城址(千葉県版)
- ・寺社にまつわる伝説(市原市 その2)
- ・市原市・宗教法人一覧
- ・市原の城郭と国府跡をたずねて
- ・Wikipedia- 市原郡
- ・市原市歴史と文化財シリーズ
- ・いちはら歴史の旅人

・そのほかに、紹介した寺院・神社の関係者の方々の協力を頂きました。

加茂里見地区の地名の由来と史跡と文化財

発行・編集 市原の歴史を知る会

住所 市原市能満1020番地1

連絡先 090-3545-1113